

「地域公共交通のあり方を考えるシンポジウム 2016 in 九州」
「地域公共交通活性化セミナー2016 in 福岡」を開催しました。

(九州運輸局)

九州運輸局では、10月26日(水)～27日(木)、TKPガーデンシティ博多新幹線口5階プレミアムホール(福岡市博多区)にて、今回で8回目となる行政・交通関係事業者・一般市民を対象としたシンポジウム及びセミナーを開催しました(シンポジウムは、九州地方整備局との共催)。



10月26日のシンポジウムは「熊本の復興に向け、地域公共交通が果たす役割」をテーマに、今年4月に発生した熊本地震が公共交通に与えた影響や現状、平成23年に発生した東日本大震災後に公共交通が果たした役割について、講演やパネルディスカッションを実施しました。講師には熊本県 藤井交通政策課長、九州産交バス 河合取締役、南阿蘇鉄道 津留専務取締役、岩手県立大学 元田名誉教授、福島交通 武藤代表取締役社長、コーディネーターに大分大学 大井准教授をお迎えし、行政・交通事業者等を中心に190名が参加しました。熊本地震が公共交通に与えた影響は大きく、特に、JR豊肥本線、南阿蘇鉄道については全線復旧まで相当な時間を要する状況にあり、バスについ



パネルディスカッションを実施(26日)

ても被災の影響を受け、経路の変更や迂回運行を余儀なくされている地域もある状況です。九州においても南海トラフ巨大地震発生時には大きな被害が予想されており、今回のシンポジウムは地域公共交通の観点から熊本地震の復興を考えるとともに、災害を受けた状況下での公共交通のあり方、自治体と交通事業者の連携した事前の災害対応策を考える機会になったものと思います。

27日のセミナーは168名の参加を頂き、タクシーも公共交通の重要な役割を担っているとの視点からタクシーを中心とした先進的な取り組みを紹介しました。九州管内の市町村においても急速な人口減少、高齢化が進行しており、これまでより小規模な輸送需要が多くなることが想定されています。その中で、持続可能な公共交通体系の構築に向けて、タクシーを地域公共交通の一部として位置づけ、幅広い取り組みを進めていく必要があります。今回のセミナーにおいて紹介した事業者や自治体の先進的な取り組みが、タクシーの役割を改めて考える契機となることを期待しています。



講師への質疑応答(27日)